# DIYでリフォームしてみました!
# ―床に寝転んで思う。「ここが一番、心地いい」

余市医師会
林病院
林（はやし）　秀一郎（しゅういちろう）

薪ストーブや囲炉裏のある暮らしに憧れていた私たち。そんな思いを胸に、３年前、町内で築38年の平屋に出合いました。DIYにも関心を持っていたので、「この家で理想の暮らしを形にしたい」と、自分たちの手でリフォームに挑戦することにしました。

構想は、薪ストーブの設置から始まり、壁は漆喰、床は無垢のフローリング、キッチンはすべて木製で自作するという、かなりの大仕事。もちろんすべてが初めての経験でしたから、ネットや書籍を頼りに情報を集め、資材や工具も一からそろえました。作業のたびに工具が増え、来てくれていた業者さんに「また道具が増えてる！」と驚かれたのも今ではよい思い出です。

最初の難関は、薪ストーブのための床の補強とレンガによる断熱壁作り。狭い床下での仰向け作業は、還暦を迎えた体にはこたえる重労働でした。続く漆喰塗りも、壁紙剥がしから苦戦し、漆喰も思うように塗れず、職人さんの技術の奥深さを痛感しました。その後のフローリング作業も猛暑との闘い。居間、キッチン、玄関と次々に無垢材を張り、紙やすりで丁寧に磨き、オイルで仕上げていきました。完成した床を裸足で歩いた瞬間、その無垢の温もりと心地よさに感動し、「天井も無垢にしよう」と決心。上向き姿勢の作業は大変でしたが、なんとかやり遂げたときの達成感はひとしおでした。そしてついにキッチン作りへ。すべてカフェ板で製作し、配管も自力で施工。完成後、居間の床に寝転んでキッチンと天井を見上げた瞬間、「ここが一番、心地いい」と思わずつぶやいていました。

その後はギミック付きのテーブル、食器棚を製作し、冷蔵庫も設置。風呂とトイレはさすがに業者にお願いしましたが、それ以外はすべて自分たちの手で作り上げたという実感があります。

とはいえ、ここまでこれたのは決して私ひとりの力ではありません。作業の補助や狭いところの漆喰塗りや繊細なタイル貼りなど、様々な作業を支えてくれたパートナーの存在がとても大きかった。細かな部分にも手を抜かず、一緒に悩み、笑いながら作業を進めた時間は、今でもかけがえのない思い出です。

庭の花はガーデニング好きな彼女が毎年少しずつ植え、年々彩り豊かに。私は花の名前を覚えるのが苦手ですが、咲きそろう季節には、二人で庭を眺めながら、穏やかな時間を楽しんでいます。

最近は、庭にレンガを積んで作ったピザ窯で、初めてピザと焼き芋を焼くことができました。美味しいピザと、とても甘い焼き芋を食べた彼女の驚きと喜びが混じった表情を見て、「やってよかったな」と心から思えた瞬間でした。

振り返れば、DIYは単なる作業ではなく、私たちの「時間」と「想い出」を刻む営みでした。還暦を越えて体の変化も感じ始めていますが、いまだ未完成のところも多く、少しずつ、わが家を育てるように手を入れていくのが楽しみでもあります。

焦らず、急がず。サグラダ・ファミリアのように、時間をかけて、二人で理想の住まいに近づいていけたらと思っています。

Before　　After

室内　　屋外